令和元年度第７回立川市第３次観光振興計画協議会　要旨

会議名称	立川市第３次観光振興計画協議会
開催日時	令和２年１月 28 日（火曜日）　午後６時 00 分～午後７時 45 分
開催場所	立川商工会議所役員会議室
次第	1.　開会 2.　立川市第３次観光振興計画（素案）について
配布資料	1.　立川市第３次観光振興計画（素案） 2.　第６回議事録
出席者	［構成員］ 会長 岩﨑太郎、副会長 岩下光明、小野和久、都築諒、中田龍哉、及川卓也、木嶋雅史、嶋津隆文、鈴木義嗣、矢ノ口美穂 ［事務局］ 奥野武司（産業観光課長）、津﨑政人（観光振興係長）、中澤栞（観光振興係）、岸田知裕（観光振興係）
欠席者	穂積計人、前田千歳
話題提供者	なし
公開及び非公開	公開
傍聴者数	０人
会議結果及び要旨	立川市第３次観光振興計画（素案）について、３月議会の報告に向けた庁内調整を行う。今年度の協議会は終了。次年度の協議会は年２回の予定とし、計画の推進について協議をすることとした。
担当	産業文化スポーツ部産業観光課観光振興係 電話 042-529-8562

１．開会

２．立川市第３次観光振興計画（素案）について
（会長）
まず、今日の資料の確認と、変更内容の説明を。
（事務局）
資料に基づき説明。
（会長）
確認だが、今日意見が出た場合は修正ができないか。
（事務局）
この後２月３日、６日の庁内の経営会議、政策会議にかけるため、そこに提出するまでは修正ができる、大幅な修正は難しい。作業的には今週末までの反映なので、タイトなスケジュールだが修正することはもちろん可能。
（会長）
それでは、各委員から感想を含めて質問があれば。まずＦ委員から。
（Ｆ委員）
何はともあれ、色々あれやこれや言って心苦しいが、我慢強くまとめてもらって、感謝している。ぜひ実施することに尽力をしてもらえれば。何よりも、61 億円をまた仮の姿にしないよう、頑張ってもらいたいと思う。
（Ｅ委員）
紆余曲折あったにせよ、うまくまとまったと思う。28、29 ページのところは、見開きになって見やすくなったと感じた。今回、自分が観光に携わる上ですごく勉強になったし、この計画をどうやって市民の活動につなげるかをしっかりと考えていきたいと思っている。
（Ｇ委員）
前回コメントした件を反映してもらって、感謝している。全体的にも特に申し分ないと思う。私も何か、少しでも役に立てるような活動ができたらなと思っている。
観光資源のところを見直したが、もしスペースが足りるようであれば、アリーナ立川立飛が追加されるので、タチヒビーチもどこかに入れられれば。レジャーのところ、少ないスペースだが。入ればだが。スポーツのジャンルでも、ビーチサッカーとかもやっているので。
（事務局）
検討する。
（Ｇ委員）
あとは申し分ない。
（副会長）
全体的なまとまりとして、行政の作る計画って割と文字ばかりで、途中まで読んで嫌になるのだが、今回は表が入ったりして、整理のされ方がすごく読みやすい立て付けになってよかった。この計画を出したところで、主体がどういった役割を果たすか、その中に行政としての取組も明記したので、すごくいい仕上がりかなと思う。
もし仮に追記するとすれば、「立川をしらせる」の部分に、対象はどこからでも色々な人が来て、いいねが見つかるということだと思うが、実施段階の母体が考えることかもしれないが、長野県や山梨県の西側への働きかけを立川は強くすべきと思う。そういう文言を入れるか入れないか。実行の時に実行団体が考えることなのかな、とも少し感じているが。
（会長）
その辺りから、こちらに来ている人が多いか。
（副会長）
ペルソナを決めるとか、どこにどういった、突き刺さる発信をするか。どの辺をメインに立川は、世界中なのか、近隣の交流人口を増やすのか、相手が見辛いかなというのが若干ある。それは、観光協会とか、やる側が考えることでもあるのかもしれないが。

（会長）
この資料では、来街者調査の結果がある。7割から８割が多摩地区からの来訪者という形で結果が出ている。これについて、立川市としては「もっと色々なところから来てもらいたい」という思いなのか、「それでいい」という感じなのか。
（事務局）
市としてオーソライズされた方向性は正直あるわけではないと思うが、立川に関してはもう少しあと何年か増加傾向だが、多摩地域全体の人口減少が始まっており、この現状が良いというのにしがみついているだけでは、その先厳しいだろうという背景がある。このエリアにおいては交通のアクセスがよく、副会長の言うように、山梨・長野方面から立川に移住した人もかなりいたり、何かといえば立川に買い物に来ると、個人的にも色々と聞いている。
だからといって、山梨の潜在的な人口も減少の中にあるので「どこに向かってターゲットを」というのは、正直我々も、力の入れ具合も含めて図りかねているところ。この計画の中で明確な方向性を打ち出すのは正直難しいかという認識。
ただ、意見にあるように、ここで課題になっている定量的データを生かす段になった時、このテーマだったらどこに対してメッセージ性を伝えるか。JR とうまくコラボできるなら、まだまだそっち方面から人を引っ張ってくる術もあるんじゃないかとか、手段ややり方で色々な可能性が出てくるかと感じている。よほど南武線が立体交差化されてアクセスがよくなったりすると、空港から直で来られるような外国人をターゲットにしうるとか。後は夢物語だが、横田基地の民営化とか、状況によってターゲットは変わりうるのかなと。今の段階では絞り込むのは難しいかと。
（会長）
５年前の協議会では、JTB さんからだったか、山梨から立川の百貨店を中心に買い物に来ているとデータを示してもらい、論議した記憶があった。今の数字はないが、逆に中国から、とかになるのだろうか。
（事務局）
中国だけに頼っていると、例えば今回のコロナウイルスではダメージが大きい。あまりポートフォリオを固めすぎると、リスクも大きいのでそこは意識しないといけないかなと。とはいえ、ターゲットをどう絞るか。イベントの誘致については、東京蚤の市の誘致・調整を頑張ってやってみたとき、区部から来るというのは予想していたが、実際現場を見ると、普段立川に来ていなさそうな層がかなり来ていたのと、外国人もそれを目掛けてきている方も多かったと聞いている。
計画にも書いているが、多摩地域の外から来る方のほうがお金を落とすというデータもあり、そこのバランスを考えないとまちに落ちるお金の量が増えない、というのは意識していくべきと認識している。ポートフォリオを、多摩地域もありつつも、分散化させていかないとリスクがあるなと、我々サイドは認識している。ただ、長期総合計画では、調査を踏まえてどうすべきかを描き切れていないのが実情。
（会長）
今日、この会議の前に MICE 関連の会議があり、そこのデータでは公共交通機関で来た人の方が、滞留時間が長く、お金を落とす可能性も高いというデータがあった。車だと、目的を達成すると帰ってしまうのだろうか。何かしらのデータでグラフを作っていた。一般的な話としてされていた。
（A 委員）
全体的には非常によくできている。特に、第６章の施策に落とし込むところが、綺麗にまとめられていて非常によいかなと。また、会議所としては、MICE の件や、実証プログラムも入れてもらったのはありがたかったかなと。
ただ、今日の MICE 会議でも出ていたが、観光振興をやっても、地域として残るお金が少ない、と。最終的には、地域産業を活性化したもの、地産で中に落とさないと外部に流出してしまい、まちが潤わないという話をしていた。また、少子化の形だと、おそらく今ベッドタウンとして立川から都内に通っているのが、都心に住民が移ってしまう可能性が高い。１時間以上かかるのが、少子化になって都内・都心に住みやすくなる危険性が高くなるということなので、まちの魅力を出して、産業を活性化するのが重要であると今日話があった。観光振興とは違うかもしれないが。

（B 委員）
２点あって、１点は、勉強になった部分もあるが、立川市が持っているものを使ってやるのもいいが、ピンポイントで尖ったもの、それが活用する資源なのか、対象なのかはわからないが、もう少しピンポイントの目線は今後必要かと。
もう１点、重複する部分だが、これを見たときに、例えば女性や若い人たちが見たときにどうなのかな、という視点についてはもう少し考える必要があるかなと思った。
（会長）
女性の活用とか？
（B 委員）
特に、重箱の隅をつつくわけではないが、41 ページのシェアリングエコノミーについて、シェアサイクルとか、今来ている人がどういうターゲットなのか。今後５年間、実際に若い人が、もうサイクルって、立川市ではいいかもしれないが、使い古されたと言い方はあれだが、あまり訴求力のあるものではないと思っている。これを何のためにするのか、となったときに先々を考えると、もう少し将来的に関わりが増えていく若い人の目線は必要かと。
（会長）
事務局の若い職員の方、どう思うか。
（事務局）
シェアサイクルに関しては、結構どこでもやっている事業ではあるので、どちらかというと立川は「導入できていないところを、歩調を合わせて連携していく」という面が強い。未来というよりは「歩調を合わせるところをやっていきましょう」と。
（会長）
普通のインフラになるような形か。
（事務局）
シェアサイクルは交通対策の観点から入れたいという話だが、事業者と調整をしていると、事業ではペイできない、税金投入しないとペイできない、という理由で進んでいないところ。それを、行政区域を跨いだ施策としてペイできる仕組みにできないか、というのが問題。
若い人の視点に立った、わくわくするような視点というのは、どうしたらいいのか。
（B 委員）
具体的な提案ができないので、心苦しいが。
（事務局）
立川はシェアで何でも済ませることができるイメージとかは、そうかもしれない。ライドシェアというヒントを元に調べると、ライドシェアは乗り合いだが、１つの物をシェアすると「カーシェア」と意味が変わるので、シェアリングエコノミーという「シェアする生活」という言葉をあえて導入した。
今、スペースマーケットという会社で、使っていない不動産をシェアするとか、そういったものを観光視点で色々と使えないか、それを考えるきっかけとしてあえてこういう言葉をいれた。南口にもシェアハウス、ソーシャルアパートなんかもある。シェアする概念が当たり前という若い人の感性をとらえて、まちづくりに生かすことなのかなと理解している。
具体的にどうするかは、個人としては確信となるものを持ち得ていない。そこは、皆様のアンテナやネットワークを元に、「こういうものを導入したらいいのでは」というものを進めていきたい。
（会長）
知り合いにシェアホテルというのをやり始めた人がいる。どういう発想で出てくるのかわからないが、そういう方のお話を聞いてみたいなと思っている。まだ立ち上げたばかりだが。B 委員からもアドバイスをもらいたい。
（C 委員）
計画としては体系立てて分かりやすくできているので、特にこれでよろしいかと思っている。後は、戦略・戦術と整った中で、具体的なアクションプランにどう結び付けて、担う人がどう動くかという意味では、我々も主体の一つだと思うので考えないといけない。なかなか、観光って裾野が広いとは

いえ、実際に動くと限られた人がやっているというのにならないようにしないと、というところもあって、一番関わりの深いメンバーが動いていく中で、少しでも住んでいる人に、観光を通じて地元に関心持ってもらうことに繋がることができたらいいなと思う。

（D 委員）

私も、すごくよくまとめられたなと思っている。観光の概念、立川の課題、立川の到達点を盛り込みながら指針を整理していくということで、他の自治体でも参考にされたほうがいい、非常に優秀なまとめ方をされたかと。

B 委員の言葉は、僕も非常に重要だと思っていて、戦略ができて、個別具体的なことに落とし込む。例えばコンセプト、ブランドメッセージにするとどうなるかとか、そこに関わる事業者がこれを指針にしながら具体的にして、個別散発的にならないようなネットワーク、繋がりを作りながら全体で進む、纏まる母体というか、方針書になっていくことが大事かなと。

先程の新しいことや、若い人たちがこれをみて「立川で自分のビジネスなどをスタートアップしたい」「こういうことに取り組みたい」とか、34 ページにも盛り込まれたが、異なる文化や新しい魅力を加え、新しい観光資源を開発とか、新しいことが始まるとか、それでさらに立川の魅力がプラス、注目されることが起こっていくと楽しいし、そういったポテンシャルもある。そういった意味では、シェアリングエコノミーって、若い人たちがこれというのを考える場になるといいかなと。

例えば、サブスクリプションモデルでこんな低額でサービスが受けられるとか、分散型ホテル、新しいホテルを建てなくてもまちのホテルの機能を果たすとか。

上勝町はゴミゼロを目指している町で、まちの中で廃材を使ったゲストハウスを作ったり、果物の廃棄される皮を使ったブルワリーを作るとか、普通では思いつかない事例、エッジが立ったビジネスなど、新しいことが起こっていくサポートを、この指針や既に集まっている事業者が若い人を遊ばせたりサポートしたりすることで繋がって、戦力として若い人を取り込むと面白くなっていく予感がするので、個別で継続して議論して、ネットワークの中で取り組まれていくといいのかなと思った。

すごくいい骨子ができたと思って、後は個別の切り口を見つけていって、どのように検証・連携してくのかが具体的な動きになると思う。私も何かお手伝いできることがあればと思う。

（会長）

確かに、今はもう若い人が色々なビジネスをやっている。福祉事業も、昔はビジネスにならないとなっていたが。

（D 委員）

アールブリュットやアウトサイダーも新しい展開をしていて、思いつかない発想をやる人たちを大事にするのもいいかなと。

（会長）

それをやっている人が隣にいて、シェアハウスを経営されている。面白いことをやっている人がいるか。

（副会長）

いる。今はでっかいビジネスで１億は稼げないが、１千万で家族は食えるから、というのでどんどん面白い事業をやっている若い子たちがいる。そういうのが「立川ならやれるんだ」というのを発信するだけでも自然に集まる。市のイメージ、そこが大事。

（D 委員）

ホスト・ゲストの関係ではなく、来る人もスタッフとなって一緒にやっていく。それでシェアリングエコノミーが始まるとか。

（会長）

計画だが、読むごとに読みやすくなってきた。始めは苦痛だったが、だんだん読みやすくなってきて、前回に比べると文字も大分少なくなって、非常に読みやすくなったという気がする。

ただ１つ、「目玉は何か」と言われたことがあって、前回もそれがあって重点施策としていたが、それが立川なのかなと。１つドンではなく、散弾銃みたいにバーッと打つ。それをやるのが立川なのかなと。でも色々と意見をまとめてもらって、ありがたいと思っている。

（H 委員）

多様なメンバー集まってもらい、労いの言葉ももらった。市役所職員にとっては１度も策定事務をやったことがないという職員もいる。計画の種類によっては大きな変更があまりないとか、委員もずっと同じ顔ぶれなどのものもあったりして、職員にとっては学ぶチャンスだし、直接意見をもらえることはありがたい。「事務局は苦労した」と労いがあったが、育てるチャンスだと思っている。

観光に関わらず、これからのまちや行政のあり方だったり、背中を押す意見をたくさんもらえた。計画は紙の上のことでなく、５年間で少しでも、進捗の中で次なる一歩ができているようにしたい。